

「2017 函館マラソン」開催状況

～ はじめに ～

函館マラソン事務局です。

2017年の函館マラソンは、この7月2日に無事開催することができました。

このたび8,130名のエントリーをいただいた函館マラソン、当日は6,963名もの方にご参加いただきました。寒さに震えた昨年とは打って変わっての高温多湿のもと、最後まで諦めず見事完走された皆様、本当におめでとうございます。

今大会は、完走率が約92%と昨年よりも2ポイント低くなりました。とりわけフルは7ポイントも減少し約84%。この数字は、皆様にとって今大会がいかに過酷であったかを端的に顕しております。

ですから此度は残念ながら完走に至らなかった皆様、ぜひとも「2018 函館マラソン」をリベンジの場として脳内中枢に強く印象付けていただき、さらにフィニッシャーズタオルを高らかに掲げて記念写真におさまるご自身の姿などもイメージされて、これからまたはじまる日常生活の一部として、厳しくも楽しい自己鍛錬をご継続いただければ幸いに存じます。

さて。

web上ではこのたびの「2017 函館マラソン」について、多くのお褒め言葉とともに、あわせてお叱りの言葉も頂戴しております。相変わらずの至らぬ点、多々あったと思います。私自身、大会中の大事なところで数十分にわたる電話対応に追われ、その間、きめ細かい指示が出せなかったことが悔やまれますが、電話口から「責任者出せ！」と言われうろたえる若いスタッフに接近遭遇してしまえば、これはもう脊髄反射で電話に出てしまうのが管理職というものです。

交通規制に関し、憤懣やる方ない趣で電話をお寄せいただいたのは函館の市民。その後ろ側にはさらに多くの声なき市民が居るはずです。これはもう電話に出た以上は、その場で最善を尽くすしかありません。

あっ…気がついたらまた長々と書いている…ということで…みなさんいつものパターンですからおわかりですよ、それにわざとらしいし…ということで、さあ、恒例？の「函館マラソン開催状況」の2017版、スタートです。

～ 第1回 「飛行機が来ない！」 ～

2017大会開催前日の7月1日(土)の午前中のこと。この日の天候はうっすらと雲がかかってはいたものの気温は22℃程度、湿度もそんなになく過ごしやすい日でした。だからタイトルのおり誰かが廊下で「飛行機が来ない!」、「降りられないみたいだね」と話しているのを聞いて、「あれ、どこの空港でそんなことになっちゃってるの?函館はこんなに天気いいのに」と、全く意に介さず準備に勤しんでいたのですが…。

次の瞬間「金さんが来ない」と聞いて驚きました。それって函館空港のことだ。

9時10分着の航空便で函館入りする予定であった函館マラソングストランナーの金哲彦さんが定刻に到着できないの報に接し、確認のためあわてて各方面に電話すると、原因は「函館空港上空での濃霧発生」、その対応として「該当便は新千歳に向かった」、今後の状況は「濃霧は当分続く」、後続便も「出発地に戻るか新千歳に向かう」。

どうしてだ!去年天気が悪かったのも、ことし陸上競技場の上空がこんなに穏やかなのにヒコーキが降りてこれられないのも、全部オレに運がないからなのか?と心の中で嘆いたとき、また不思議な体験が。脳内にあのときのようなささやきが聞こえてきたのです。

「一番困ってるのは…お客様ですよ」

※不思議なささやき → <http://hakodate-marathon.jp/progress/> (第8回です)

「あ、そうだよこんな時こそ情報発信しないと…」

我に返って状況確認すると、ランニングクリニックは、主催者たる函館商工会議所青年部のスピーディーな判断により11時から部と14時半からの部が統合され、15時に一括催行されることとなりました。あとは新千歳に降り立った東京・名古屋・大阪からお越しの計4便・数百人に及ぶお客様に対し、webサイトの新着情報とフェイスブックで状況を報告し続けることができました。なお、各種の情報収集にあたっては、状況が逼迫する中、多くの企業・団体からご協力をいただきました。この場で御礼申し上げます。やはり持つべきものはいざという時、頼りになる「関係者」ですね。

新千歳着となってしまったお客様におかれましては、その後の移動などで大変な思いをされたことと存じます。あらためて…本当にお疲れさまでした。その後、函館空港の直上を取り巻いていた黒灰色の濃霧は午後2時頃から徐々に薄らいでゆき、やがて競技場の上空をかすめるいつものルートで大きな翼が続々と舞い降りだしたのであります。



金哲彦ランニングクリニック開催状況
7/1(土)15:20撮影 ※青空が見えますね

～ 第2回 荷物預かりについて ～

「はじめに」のところで触れた交通規制に関する電話対応。それを終えると「ゴール後の荷物引き取りにランナーの長蛇の列」の一報が…現場を確認すると報告どおり陸上競技場までお客様の列が出来ておりました。原因は、荷物預かりに関し、昨年大会の開催を通じて寄せられた「セキュリティを上げて」というご指摘に確実に応えるため、荷物の引取りの際に「対面受け渡し方式」を導入したこと、それに尽きます。

バックヤードを覗くと十数名のスタッフが、文字通り「走り回り」ながら作業を進めておりましたが、

- ①受付でお客様のゼッケンを確認する
- ②スタッフが該当ナンバーの荷物を素早く取りに行く
- ③受付で、ゼッケンと荷物を照合し、お渡しする

という一連のサイクルのうち、ハーフ終了後におけるランナーに対し②の部分が徐々に対応できなくなり、結果、列の延長が増大していったとのことでありました。

状況改善のため途中で大量のボランティアスタッフを投入しましたが、改善の道筋が見えなかったことから、急遽、現場でのご判断をいただき、昨年スタイルの「出口確認方式」に変更、まもなく行列は解消されたのでありました。

お客様に約束した対面での受け渡しを変更するのは、トラブル発生時には抗弁できない重篤なリスクを抱えることとなります。それでも会場全体の運営を踏まえ決断していたいたヤマト運輸さん、ありがとうございました。

荷物引き取りで長時間並ばれたお客様には炎天下で不快な思いをさせてしまい本当に申し訳ありませんでした。今回はこのような事態は「発生しない」ということを、来る2018大会の開催まであと1年弱に迫った今の段階から確実にお約束いたします。

対策の方向性としては、セキュリティと回転数の両立、即ち、荷物の引取り時における「出口確認方式」をチューニング（荷物かごから各自がピックアップする際の係員の立ち会い+出口を狭小化しゼッケンを複数回照合+防犯カメラの導入…など）します。なお、これら対策の導入が参加費アップに繋がらないよう、もちろん調整します（あ、「2018大会準備状況」の内容に踏み込んでしまった…）。



荷物引き取り時に発生した長い行列
(炎天下に…申し訳ありませんでした)

～ 第3回 高温多湿（その1） ～

夏のマラソンになりましたね。

炎天下での大会催行にも対応できる、いや対応するんだ！という強い意志をもって、我々、このことを「フル化」の準備段階から重要課題として設定し、これまで体制構築に努めてきたのであります。マラソンは、時にヒトの生命をも左右する危険な競技だからです。

そのような考えで、函館市医師会の全面的なご支援のもと大規模な医療チームが編成され、大会催行に備えていたのでありますが、昨年の大会は、設定とは真逆の現象が起き、みなさんの健脚を誇るべきフィールドは、低体温症の方が出てしまうような寒くて辛い大会となりました。

それが今年は一転し、当初設定通りの暑い大会となりました。スタート後、刻々と時間が経過していく中で熱中症の方が頻出いたしました。これを数値で見ると、これまで救急搬送（救急車の出動）件数が一番多かったのは、9月末開催時代である2013年大会（3千6百名参加・ハーフマラソン）の際の9件でした。一方、参加者数がほぼ倍、走る距離も倍となった今大会の救急搬送数は14件（去年は4件でした）。

この多寡を軽々に申し上げるのは差し控えますが、強風で医療テントの設営すら危ぶまれた昨年大会の経験を踏まえ、コース上の7箇所、バスを活用した救護所を設営いたしましたので、医師および医療スタッフの確実な対応に加え、バスならではのエアコンの効いた空間で回復された方も多かったと伺っております。

何れにいたしましても、今回、350名にもおよぶ医療スタッフを編成していただいた函館市医師会のご尽力に感謝を申し上げますとともに、北海道看護協会道南 南支部、北海道理学療法士会 道南支部、北海道柔道整復師会函館ブロック、函館厚生院看護専門学校、市立函館病院 高等看護学院、函館市医師会看護専門学校、函館市消防本部、南渡島消防事務組合、函館サイクリング協会、北海道救急医学会、北海道ハイテクノロジー専門学校、そして全国各地からお越しいただいた日本医師ジョギーズ連盟の皆様には心よりの御礼を申し上げます。

今後は運営委員会 医療・救護部会の開催を通じ、今大会における医療面での問題点の掘り起こしと課題の整理、そしてそれらへの確実な対応を図り、より一層の安全性向上策を追求してまいります。



舞台裏の状況（医療・救護本部）
※奥側が大会本部です

～ 第4回 高温多湿（その2） ～

私事で恐縮ですが、2017大会を終えた翌週の7月9日の日曜日、ほぼ1か月ぶりにロードバイクでロングライドに出かけました。コースは道南の活火山「恵山」巡り。

練習不足かつ前日の深酒&睡眠不足で臨んだ往復100キロの行程でしたが、炎天下とはいえ水分補給さえきちんとしていればなんとかならうて…といった軽い考えです。すいすい走破していた後半80キロ地点で、突然の悲劇が舞い降りてまいりました。

なんと、いつもは軽々と登れる100m程度の坂の途中で、

- ・まずは左大腿部に僅かな痙攣を感じる
- ・それをかばうようにペダルを漕いでいると、今度は右大腿部に大きな痙攣を感じる
- ・このままでは転ぶ！という焦りから本能的に自転車を飛び降りる
- ・自転車を何とか支え、上半身を伸ばすと臀部から両ふくらはぎに至るすべてが痙攣
- ・1ミリも動けない状況が5分程度続く（この間、ぴっちりとした自転車用ジャージを着用した中年男が道路の真ん中で悶絶している…という何とも奇妙な図が展開）

皆さんが挑まれた「2017函館マラソン」でも、同様の光景が数多く展開されていたと伺っております。これぞ「走らない」のにフルマラソン課長である私と、「走る」ランナー皆様との邂逅の瞬間。この実体験を通じ、あらためて補給の大切さを感じた次第。

今大会では昨年大会の経験を踏まえ、給水関係では水切れだけは起こさぬようにと全エイドステーションで複数の給水ラインを確保したほか、全エイドでアクエリアスを供給するとともに、車両6台編成によるアクエリアス補給の遊撃隊を組織、アクエリアス切れも防止いたしました。また、フード提供エイド（5箇所）には塩も配備いたしました。この結果、あのような高温多湿の環境下においても、給水については万全の体制で臨むことができたものと考えております。これで次のステップ（給水所の増設）に進めます！

一方において課題も明らかになりました。web上での皆さんからのコメントをみると、水やアクエリアスが「ぬるかった」。そしてフル・ハーフ供用区間に存するエイドステーションのうち、完全分離した第1、第4エイドでは、従事団体から「交錯はほとんどみられなかった」との報告を受けている一方で、第5から第7、とりわけコース幅が狭い第7エイドではフルのランナーから「給水できなかった」という声も届いております。

これらを含め実施状況を確実に把握し、さらなる進歩に向け取り組んでまいります（詳しくは、後にアップする？「2018函館マラソン準備状況」をお待ちください）。



フル・とハーフが「交錯」した
第7エイドステーション

～ 第5回 いよいよ号砲 ～

昨年大会では、「この日のために、この号砲を聞くために取り組んできたんだよなうんうん…」などと妙に感慨深い趣でスタートの瞬間を待ち望んでいたのですが、諸々のドタバタなどへの対応もあって結局は記念すべきスタートの瞬間をするりと見逃してしまっただけなのであります。

だからこそ今回は確実に！という強い思いで、轟音を聞き逃すべくもない確実な場所、即ちスターターたる市長を含むスタート台登壇各氏のエスコート役を買って出たのであります。それに今回、号砲は2回鳴ります。余程のことがない限り聞けるでしょう。

そして、その時はあっけなくやってきました。

号砲は、思っていたよりもか弱い音色でした。ただし、それを合図として一斉にスタートして行くハーフマラソン集団の地鳴りを特等席から格別の思いで体感することができたのであります。マラソンっていいもんだ。

5分12秒で全員がスタートしたハーフ集団の後を追う形で、9時10分にスタートするフルマラソンの隊列も同時並行でどんどん形成されて行きました。

フルの集団は、大きな河の流れのようにスムーズに、かつ確実にスタート地点へと向かい、やがてフルマラソンのスタート態勢が整ってまいりました。誰一人割り込みをすることも無い穏やかで心地のよい空間をランナーの皆さんと共有していると、後方から何やら聞き覚えのある「オトン！」のかけ声が。息子でした。

「さっきからずっと見てたんだわ」、「随分とマジメに仕事してるな」などと冷やかされてから程なくして、彼も号砲とともにすいすいとスタートを通過して行きました。フルマラソンは3分35秒と、驚くほどの速さで全員がスタートしていったのであります。

それは、昨年大会の開催を通じて大きな課題となった選手集合とスタート時の混乱が解消された瞬間でした。問題点を共有し、議論を尽くし対策を練られた道南陸上競技協会の皆様、本当にありがとうございました。今回の方式であれば、今後、いろいろなことが計画できますね。



号砲とともにまずはハーフがスタート！

～ 第6回 10分間時差式スタートについて ～

時差式スタートの導入にあたっては、「2017函館マラソン準備状況（※パート1）」において、その導入によるプラスとマイナスの効果などを考察していたところです。

<http://hakodate-marathon.jp/history2017/>（※この第5回から第7回をご一読願います）

かいつまんで申し上げますと、時差式スタートを導入すれば、

- ・スタート時の混乱については解消できる
- ・一方、先発種目の遅いランナーと後発種目のトップとの間で「追い越し」が発生する
- ・「追い越し」は10分間時差で2キロ地点、20分間時差でも4キロ地点で発生する
- ・現状、20分間の時差を設定できる環境にはない というものです。

その後、関係機関との協議を経て、2017大会では「ひとまず」10分間時差式スタートの実現が叶いました。そして上記考察のとおり「追い越し」も発生しました。

「追い越し」、「追い越される」両者の関係は、互いに「邪魔」な存在として認識されてしまいがちです。このため極力ストレスが発生しないよう、競技面を担当する道南陸上競技協会において多くのスタッフがコース上に投入され、互いの分離を促す手持ち看板や個別の注意喚起など、各種の対策が展開されたのであります。ただし、結果として、それでも多くの方から「不十分」とのご指摘を受けたのは事実です。

この件、現状では解決に向けた道程は遠く、厳しいものがありますが、次回大会の開催要項を公表する来年1月中旬までの間に、関係機関・団体との協議を深め、一歩前進の改善策を展開できれば…と考えております。

「ハーフを8時スタート、フルを9時スタートとすべきだ」、あるいは「フルとハーフを別々に開催すべきだ」等のご意見があることは承知しております。そうしたご意見は函館マラソンの「理想型」を希求していくうえでは有益であり、今後、聖域を設けずに議論をしてみたいと思いますが、一方においてこの散文の全シリーズを通じてこれまで書き続けてきたことは、市民生活とマラソンという大規模イベントとの調和。

調和なきものは淘汰され、最終的に形は残らないのかなと考えております。だからこそ今日、多くの大規模マラソンが辿ってきた成長の過程などを参考としながら、少しでも理想型に近付いていけるよう、「一歩」を大切にしながら前進してまいります。

この辺のイメージは、成功体験を基として緩やかな合意を積み重ねていくことで毎回「あと10分」を希求していく…といった感じでしょうか。この場で何度か触れてまいりました「6時間マラソン化」は、そうして歩んだ道の先に必ずあると信じています。

～ 第7回 ボランティア協力会の立ち上げ ～

17大会のスタッフ数は総勢2千9百名となりました。昨年よりも約4百名の増です。凄いことです。本当にありがとうございました。

この3千人近くの「一人一人」に対し、自らのミッションをご理解いただき、現場では完璧な対応をしていただき、最終的にはご本人が満足されて「来年も手伝うから！」と仰っていただけるか否かが、今後の大会運営のために重要なポイントとなります。しかし、函館マラソン大会実行委員会事務局は都市型マラソンの中で「日本一小さい事務局」を標榜しております。我々が、ボランティアスタッフ一人一人をきめ細かくマネジメントできるか？…これって実はかなり難しいことなのであります。

そこで考えたのが「函館マラソンボランティア協力会」という組織の実験的な新設です。具体的には、ボランティアスタッフが所属する企業や団体、町会など何十もの組織に対する事前説明会の開催、当日の現場運営、事後の挨拶まわりなどを担っていただき、エイドステーションの円滑な運営を目指します。

この初めての取り組みにあたり、最も重要なのはパートナー探し。「この団体ならば…」と当方から3つの団体にお声がけをさせていただきました。フル化の推進メンバーである「函館商工会議所青年部」からは即決で「やります」、函館駅前の緑化を担い函館新道の花壇づくりでは千人近くのボランティアさんの参画を得ている超実力派のNPO「スプリングボードユニティ21」さんからも「マチのためならやるわよ！」と。

また、協力会の事務局機能を担う基幹団体については実行委の一員でもある「函館市文化・スポーツ振興財団」にご参画いただきました。同財団は、これはもう大きな組織ですから年度の途中でこの種のことを依頼されるのはイレギュラーであり苦心されたと思います。熟慮のうえ出された結論は「やってみたい」。本当に…感謝しております。

今回、11箇所あったエイドステーションの運営は、上記3団体から各エイドに派遣された2～3名のスタッフが率い、トラブルにもその都度、臨機応変にご対応いただき、あのような高温多湿のなか、水切れ等も発生せず無事終えることができました。

現場はさぞかし大変だったでしょう。3団体からは「今回の経験、大きかったわ」、「最初は自信なかったけどもう大丈夫」、「来年は安心して任せて」…と仰っていただきましたが、その前向きな姿勢には感動を覚えたのであります。函館いいね！



今年も約百名体制でランナーをお迎え
第5「テオー小笠原」エイドステーション

～ 第8回 「足らざるは無いよりわろし」を撲滅できたか？ ～

昨年大会の開催後、とりわけフードにかかわる大きな反省点として私が思わず呟いた創作ことわざが、「過ぎたるは及ばざるが如し」ならぬ「足らざるは無いよりわろし」。

この意味は「ラーメンも海鮮丼もメロンも…ゴール後に楽しみにしていた『おもてなし広場』での振る舞いも、とにかく何もなかった。ひどい」。というお客様の率直な反応を踏まえ、「数量限定」の表示は何の免罪符にもならず、そればかりか「限定」の品を掴めなかったことに対する不公平感しかもたらさないこと、即ち八方苦心して様々なものを提供しようと考えたが、結果、全員には行き渡らない状況をつくり鬨聲をかった。転じて、「足りない」ぐらいならばハナから「無い」方がマシなのではないか…というものです…ふう…相変わらず説明が長いですねそれに去年の原稿のコピペだし。

だからこそ今回は、そのような状況だけは決して作らないぞ！と臨んだ大会だったのであります。で、今回は「足らざるは無いよりわろし」を克服できたのか？

詳しいことは後述いたしますが、

<エイドステーション>

- ・間に合いました：水／アクエリアス／塩／バナナ／トマト（第7・第10）／ホワイトチョコ／羊かん／カステラ饅頭「函館散歩」／チーズオムレット／はこだて冷やし塩ラーメン／海鮮丼／メロン各種（※ハーフゴール後提供分=お約束していた3時間という設定を超えて3時間5分の間、提供することができました…ギリギリでした…ホッ）
- ・間に合いませんでした：トマト（第3エイド：あと200個あれば…第7と第10のトマトは余りましたので、要は振り分けの工夫ですね）／コカ・コーラ（第8エイド：あと300人分あれば…あの気温で「思ったよりも消費が早かった」とのことです）／夕張メロン（第10エイド：あと1玉あれば…）

<おもてなし広場>

- ・間に合いました：がごめ汁／お米「ふっくりんこ」／「風の子もち」大福／イカめし（予定数を提供できました）／じゃがバター（予定数を提供できました）
- ・間に合いませんでした：函館牛乳（寒くて何千人分も残った状況から一転、あと数本・数十人分あれば…）

ということで…まだまだですね。折角ご提供いただいたのに余ってしまった品目もありました。本当に申し訳ありませんでした。その辺のチューニングを極めていくことが肝心であると痛感しております。



今年は多くのランナーで賑わった「おもてなしフェスタ」

～ 第9回 第10エイドの運営状況 ～

昨年大会では5張用意したフード用テントが全て「飛んで」しまった第10エイドですが、今年はどうだったのでしょうか？

去年はここで「トマト」、「バナナ」、「夕張メロン」、「チーズオムレット」、「カステラ饅頭」、「冷やし塩ラーメン」、「漁り火海鮮丼」を一気に提供したのでありますが、あまりにも大量すぎて「困った」、「分散して」というお話を数多くお聞きしました。

しかしながら昨年はフル化して初の開催であり、フード提供についてノウハウがない中、ただただ勢いで乗り切る方法として、フル化の言い出しっぺである函館商工会議所青年部が集約した百名からなるボランティアスタッフのパワーを信じ、しゃにむに臨んだのでありました。現場で何があっても百人の力で確実に提供してほしい、と。

この作戦は当たり、冒頭のとおりテントが全て飛び、大会催行が危ぶまれる暴風のもとながら、予備テントを駆使してなんとか安定的にエイド提供ができたのでありました。これ全てマンパワーのおかげだったのであります。

で、今年はどうだったのでしょうか。実は今年も緑の島には結構な勢いで風が吹いていたそうです。しかし、我々が昨年の体験を経てアタマにきて展開した対策は「プレハブ」。

これ、ばっちりでした。完璧でした。誰も褒めてくれないので自画自賛いたします！

そして昨年、緑の島で厳しい体験をした商工会議所青年部の中核スタッフは、先述した「函館マラソン協力会」の構成団体として、今大会では第3、第7、第8、第10、第11エイドを担当すべく分散され、各エイドの責任者として重責を担っていただいたのでありました（※「スプリングボードユニティ21」は第5、第6、第9エイド、「函館市文化スポーツ振興財団」は第1、第2、第4エイドを担当）。

今年も大変だったと思います。それでも皆さんが居て、臨機応変の対応がなされたことにより、今回、高温多湿の中にあっても確実なエイドステーションの運用が叶ったのだと思っております。心よりの感謝を申し上げます。



第10エイド・緑の島の運営状況

～ 第10回 フードの提供状況（その1） ～

はこだてラーメン研究会「はこだて冷やし塩ラーメン」(第10エイド)：昨年は7百食をご提供いただいて、残りあと僅かのところで品切れとなり、涙を飲まれた方も多かったのです。さあ、今年はどうだったのでしょうか？この辺、ラーメンチームにすっかり溶け込んだ我がカミサンと娘（※娘はもう、交通費をかけて東京から呼び寄せておりますので…家計は相当大変です）が参戦いたしましたので聞いてみたところ…「今年は凄かった」、「食べた人、ほぼ全員が『おいしい～！』って叫んでた」とのこと。

顔こわ店主さんたちは、「現場はもう面白くてオモシロくて」、「マラソンっていいねえ～」とのこと。本当にありがとうございました。当方の不手際でガスの手配トラブルがあった中、残り1台のコンロで冷静かつ確実に対処いただき、希望される方全員に提供していただきました。そこにある環境を最大限活用し目的を達成してしまう…これぞプロ。その姿勢にはただただ感謝しかありません。

なお、「来年は？」の問いには「もう、なんぼでも任せてください！」とのこと。嬉しいですね！今年はその可愛い奥方に怒られることも「少なかった」とのことで、その点も一安心しております。



ラーメンチームの面々

函館朝市協同組合連合会「漁り火がごめ丼」(第10エイド)：昨年7百食をご提供いただいたもののあと僅かのところで品切れとなった「漁り火がごめ丼」ですが、今年は副理事長のご子息ご令嬢もヘルプに入ると聞いておりましたので、なにやら賑やかな現場を想像しておりましたところ、カミさん曰く「去年マジメに手伝ってた中学生のお兄ちゃん？居なかったよ」、「双子の娘さん？？見かけなかったけどね…」とのこと。がごめ丼自体は、これはもう、既に函館マラソンの「定番」として語られるほどの訴求力を持っており、クール事務局長氏からも「当日はちゃんと全員に提供できましたよ！」とお聞きしておりましたので安心しておりましたが…ご子息ご令嬢のこと…気になる…。

後日、副理事長を訪ねると、「息子と娘？なんもだ中体連とテストだってさ、だから手伝えなかったんだわ」、「寂しかった？なんもさ朝市の組合あげてみんなで手伝ってくれたから、これはこれで良かったんだわ」、「来年？組合の事業としてみんなでマラソンを支えるいいきっかけになったわ。だから来年も、まかせて く・だ・さ・い！」（※うれしさがこみ上げる一方で、副理事長フリークの私としては恒例の「まがせれ！」が聞けず残念ではありました）。



漁り火がごめ丼を喜ぶランナー

～ 第11回 フードの提供状況（その2） ～

中川青果「メロン」(第10エイド・フィニッシュ後)：函館マラソンへのくだもの提供のみならず、ランナーとしても参加された「くだもの社長」氏を訪問してまいりました。以下は氏による恒例のレース評や今後の展望？などです。

「いやぁペース配分間違えてさ、後半バテバテになったねあの暑さだったもの／大森浜の向かい風がキツかったって？おれはそうでもなかったけどね／ともえ大橋？みんな大変だっていうけどあんなの本州のコースじゃザラだろ／エイド？いやおれこれまでフードとか喰ったことなかったんだけどさ…今回は暑くて自己ベスト更新できそうもないし、まあ自分が提供したメロンだから一回喰ってみるか！と思って緑の島で夕張メロンを食べてみたのさ／いやぁびっくりしたね／自分で納めておいて言うのもなんだけど、夕張のおいしさにあらためて感動したんだわ」…とのことでした。そして、

「来年？／こんなに有名にしてもらったんだからねえ／…頑張るしかないでしょ」

※↑恒例の「北海道朱肉メロン色強調」です！…とはいっても、たった今、勝手に名付けたのですが…。

…とのことでした。ホッ。氏にはこのほか、大会前のコース清掃のボランティア活動を展開していただくなど函館マラソンを物心両面から支えていただいております。本当に…感謝しかありません。



フィニッシュ後はメロンで一息

千秋庵総本家「カステラ饅頭 函館散歩」(第8エイド)：昨年に引き続き快く商品が無償提供していただいた超老舗和菓子社長氏からお話を聞いてまいりました。

「今年のマラソン、天気良くてよかったね。去年は凄い大風と雨で大変だったもの／え、暑かったって？／去年と比べたらどうなの？／去年よりはいいよね／ああ、あの天気だったら少しぐらい降ってても良かったんだ…なるほどね／で、今年はどうだったの？足りなかったの？余ったの？ウチのイチ押し『カステラ饅頭・函館散歩』さ／そうなの…ちょっと余ったんだ／去年は足りなくなったから今回は倍の2千個提供したんだけどさ…ちょっと多かったのかね？／でもまあ去年みたく足りなかったってことにはならないもんね／そうだったら大変だもの…だからよかったんだよ／暑かったもんね／暑くてもみんな無事だったんでしょ？本当によかったわ／そしてマチも賑わってたし、よかったわ／来年？／来年も任せてくださいな！」



カステラ饅頭でチャージ！

～ 第12回 フードの提供状況（その3） ～

ペシェ・ミニョン「チーズオムレット」（第8エイド）：ふわふわお菓子の本部長から、今年のエイドステーションの運営状況などを伺ってまいりました。

「今年は提供場所を変更したからでしょうかね？ちょっとチーズオムレットの出足が鈍かったですね／そうなんですよ、少し余ったんですよ／あそこで提供していることをわからなかった人も多かったのかな？／でも去年は食べられなかった方も居ましたからね…足りないというのはランナーも提供する側の我々も悲しい感じになってしまいますのでまあ良かったのかな…と／フルに参加したうちの社員も去年は「食べられなかった」と嘆いてましたが、今年はかなり喜んでましたね「おいしかった～」って／今回用意した数は去年の倍ですから、この2回の経験で程よい数が何となくわかってきたような気がしますね／実は定番の「チーズオムレット」のほかに、若干ですが地域限定品の「メープル」とか「いちご」のオムレットも提供したんですけど／ランナーは走ると食べるのに夢中で、気付いた人はいなかったようですね／え、来年はぜんぶその函館限定の「いちご」で行きませんか…って？／あははは…いちごは高いんですよ何せ函館産（恵山地区）の美味しいやつを使っていますからね／なにに？個数をベストバランスに調整すれば相殺できる？スルドイ／…いやいやいや…ダメダメダメ／相変わらずしつこ…あっ…（※あぶない心の声が出てしまいそうになった）／うーん／まずは来年も頑張りますから／来年のことは来年ね／そういうことでこの場はおさめてくださいな…」



「いちご」味などもあったようです！

北海道コカ・コーラボトリング「コカ・コーラ」（第8エイド）：今年からご担当いただくこととなった清涼飲料業界代表の新課長にお話を伺ってまいりました。

「良かったね今回の大会／えっ！コーラ今年も足りなくなったって？それ誰から聞いたの…／いやね、あの天気だったでしょ、だから約束よりもだいたい多めに持って行ったんだけどさ／あの天気でしょみんな飲む呑むのむ／だからみんなで一生懸命カップに注いでたらさ／一人で2杯3杯飲む人も居てね／ホント嬉しいかったわ～／でも気がついた時にはもうコーラがないのよね／びっくりしたわ／ウチらって飲み物業界の代表格じゃない？／だから足りないとかそんなのはちょっとマズいわね（※そのセリフ…前にもどこかで聞いたことがあるような…）／だから来年は任せなさい！／ホントに大丈夫かって？オレを誰だと思ってるの！／ハンコつくのオレなんだから、オレがシュッとハンコつくから…もう大丈夫！」



コカ・コーラの人気、すごい！

～ 第13回 フードの提供状況（その4） ～

五勝手屋本舗「ミニ丸缶羊かん」(第7エイド)：大会終了後のコメントなどを見ると、ランナーからは今年も「おいしかった!」、「これを楽しみに頑張った」という声を数多くいただいた「丸缶羊かん」。一方で「走るには重くて泣く泣く捨てた」、「量が多くて…ひとくち食べて捨ててしまった」というコメントも散見されました。これは悲しいことです。函館マラソンへの羊かんのご協賛について、これまで打ち合わせを重ねてきた私としても不本意です。そこで、五勝手屋さんの今のお気持ちを、江差に行ってお聞きしてまいりました。また、そもそも来年も無償提供というご厚意を継続していただけるのかどうか…という根本的事項についても。

羊かん専務「今回、ウチの羊かんの関係で色々なことがあったということは聞いてましたよ」

事務局「(やはり…知っていたのですね) 私としても不本意です/どうでしょう?ランナーからの要望に対応できるよう、来年は昨年大会のようにスライス版『通好み』のご提供を復活していただけないものではないのでしょうか?」

専務「スライス版の方ですが…去年は手に取る方が意外に少なくて…結構余ったんですよね/だからコスト度外視で、今回は全部、1本まるごとの『ミニ丸缶羊かん』にしよう!ってことで頑張ったんですけどね/うーん…悩んでしまうなあ」

事務局「(悩んでる…ということは…来年も継続OKの前提?)あと、羊かんは現在、第7エイドでお配りしてますが、ランナーへの栄養補給ということであれば『場所に少し遅い?』とか『もう少し手前の場所で』という意見もあります」

専務「なるほど～もう少し手前でね」

事務局「(拒否反応が全くない…よっしゃ話をごちゃ混ぜにしてグイグイいくぞ～)ご承知のとおり、現状の第7エイドはフルとハーフが混在してまして…/あのとおりコース幅も狭くて何らかの対策が必要です/だから安全性向上のためにも羊かんの提供ポイントを第5エイドに変更(前倒し)したいと…/どうでしょうね?」

専務「ウチらとしては、配る場所はお任せしますよ!」

事務局「(よし!それって来年も継続の前提だね!あとはあの1点だけだ)あのお、ところで今回、函館マラソン・オリジナル柄羊かんを2種類ご用意いただいたようですね?それ、私、参加者に聞いてあとで知ったんですよ/なんと素晴らしいサプライズ!/みんな欲しがってますからそれ…来年こそは土産商品化、しましょうよ!」

専務「あはははは…(しばし間があって)…ダメです」



スライスした羊かんも提供(16大会)



今大会ではポスター柄のほかレトロ柄もありました

～ 第14回 おもてなしフェスタ（その1） ～

フィニッシュ後の飲食提供「おもてなしフェスタ」の運営にあたり、今年は「全員に確実に提供し、不公平感を根絶する」ことを主眼として取り組むこととしました。そのために用いた手法がナンバーカードへのフードスタンプの押印。「これでばっちりだ！もう去年のような混乱はないぞ！」と歓喜した我々でしたが…すぐに重大なミスに気付いて…スタッフ皆、愕然としたのであります。なんと肝心のスタンプ押印欄がナンバーカードの両方（前後2枚とも）に印刷されていたからです。要するに重複を避けるために用意したものが、イベントを始める前の段階から重複していたのです。原因は…発注ミスでした。

いやぁ焦りましたね。これでは混乱防止策が混乱促進策になってしまう。でも悩んでいる時間はない…何しろナンバーカードの発送は既に始まっていたからです。

この混乱防止策による混乱を防止するため（←アホ）、web上で事前アナウンスに努めたほか、当日は会場でもプラカードなどで「使えるのは前側のナンバーカードだけ」と案内することとしたのであります。そしてヒヤヒヤしながら迎えた当日ですが…。

結果的に、「おもてなしフェスタ」でのフード配布上のトラブルはほぼ皆無でした。この点、あらためてランナーの皆様の公德心に敬意を表したいと思います。もちろん来年は前側のナンバーカードだけに押印欄を設けます！（←あたりまえだ！）。…ということで今年の「おもてなしフェスタ」の状況を何回かに分けてご報告させていただきます。

函館酪農公社「函館牛乳」（全員に提供）：昨年の経験を踏まえ「マラソン後に牛乳を飲む人はそんなに多くない」との大胆な仮説を立てた同社からは、「ランナーのゴールを待つご家族の方にも提供して、函館マラソンを大いに盛り上げたい」との意向が示され、協議の結果、ナンバーカード押印方式は採用せず、「その場で飲みたい人全員に提供する！」という大盤振る舞いがなされることになったのであります。ただ当日は一転して蒸し暑い一日となり、用意した「全員提供」相当分の牛乳は、あと数本、数十人分を残すところで品切れとなってしまったのであります。

反省することしきりの同公社のカラダの大きな課長からは、来年はもちろん「スタンプ押印方式にさせて～」と、まずはランナーへの確実な提供に努めること、そのうえで「限定的にでもいいから『お連れ様枠』を設定するなどして、多くの方に牛乳を飲んでいただく機会をつくりたい」との野望が示されたのであります。嬉しいですね。



暑い中、「いつもの牛乳と全然違う！」という喜びの声が広がってましたね

～ 第15回 おもてなしフェスタ（その2） ～

がごめ汁プロジェクト「がごめ汁」（参加者全員に提供）：当日はあの暑さゆえ現場では「暑いからみそ汁飲む人は居ないんじゃないか…」、「果たして何人来てくれるんだろうね？」といった思いが交錯していたとのこと。結果的には当日出走されたランナーの6割・約4千名のお客様に「がごめ汁」を振る舞うことができたとのことで、プロジェクトのメンバーは皆さん満面の笑みを浮かべておられました。

皆さんのお姿を邪魔にならないよう横から拝見させていただきましたが、代表たる老舗旅館元料理長をはじめとして函館調理製菓専門学校の和の達人、国際ホテルの総料理長氏などプロの皆さんが真っ白い装いで「がごめ汁」づくりに取り組まれている様子は壮観でした。当日は30名近くの方々にスタッフとしてご参画いただき提供することができた「がごめ汁」、事務局には多くのランナーから「おいしかった～」の声が届いてますよ。皆さん本当にありがとうございました。

ただ少し気になったのが代表のお言葉。「みんなに旨いがごめ汁を提供できてよかったわ～」そして「…本当にこれで思い残すことはないね」。代表、いえ秋保さん、ダメですよ来年もお願いしますからね！



4千名超の方々へのご提供、お見事！

（株）プロテック「イカめし」（5品目の中から各自1品を選択）：パック詰めされた出来合いの品を湯煎して提供するのではなく、あの場で、それも特製のタレで30分も煮込むという大変な工程を経てランナーに提供された超本格的な「イカめし」。予定の約1千食を、それも予定どおりのインターバルでご提供いただき感謝しております。あの暑くて、それも三方幕を張ったテントの中で、3台ものコンロをフル活用して「イカめし」づくりに取り組まれたプロテック社（※函館マラソン ゴールドスポンサー）の皆さん、本当にありがとうございました。社長、来年もこの無償提供につきまして、何卒よろしく願いいたします！「イカめし」を食べることができたランナーからは「ウマすぎ」、「これを食べるぞ！の一念でゴールした」といった喜びの声が数多届いてますよ！皆さん本当に有難うございました。

なお、現場責任者の同社次長氏からは「今回のスタンプ方式、うまくいったね」と喜んでいただいた一方で、個数の増量については「テントの中はまるで熱帯だね…ウチらフルマラソンなみの脱水症状だったのよ」、だから「千個って本当に限界…堪忍して」と…。本当に皆さん…十分です…涙ものです。



狭い空間には3台ものコンロが…熱帯的状况を見事乗り切っていただきました！

～ 第16回 おもてなしフェスタ（その3）～

函館農水産物ブランド推進協議会「じゃがバター」（5品目の中から各自1品を選択）：当日は「できたて」を提供するため、朝から近くの調理場でコンロ3台をフル活用してイモ茹で作業が展開されておりました。「やっぱりさ、おいしいものをおいしく食べてもらいたいわけよ／そりゃ極端なはなし前日からイモを煮て準備しておけば大量に作れるんだろけどさ／それじゃダメさ旨くないもの／全国から来たランナーに『おいしい』って言うてもらうのがウチらの目的だからね」と語るのはじゃがバター職人・S課長。そして来年は「無償提供だからって、ウチらに甘えはないからね／今回1000食提供を目標にがんばったんだけどさ、実は1100食提供できたんだわ…でもそれが限界だからね」とのこと…協議会の皆様、本当に感謝です。もちろんそれで十分です！



ほかほかの出来たて、大人気！

事務局手配「大人のジャンボおにぎり」（5品目の中から各自1品を選択）／当日はあれこれと走り回って何も食べていなかった私、終了後に「おにぎりとかちょっと余ってるよ！」の声を聞いたとたん、我先にとそれにかぶりついたのでありました…あ…いえいえ皆さんに提供したものは味見しておかないと…ね…来年のいい仕事に繋がりませんから。で、素直な感想としてこれが実にうまい！「大人の…」と銘打つに相応しく、ピリ辛の「がごめと山わさびの醤油漬」を具にした大きめのおにぎりは、道南名産のお米「ふっくりんこ」自体の食感と相まって見事なハーモニーを奏でておりましたね。



お米の甘みとピリ辛の具が合う！

北海道米販売拡大委員会「大福」（5品目の中から各自1品を選択）：道南は八雲町で生産された「風の子もち」というもち米を使用した大福を無償提供していただきました。おにぎりと同様に大福も「若干余った」との一報に接した私、これも思わず「1個くれ」とパクッと頂戴…いえ…現状確認したのでありました。そして、そのふっくらとした歯ごたえとクチの中に広がる甘さに感動を覚えしました。疲れたカラダに甘いものは最適ですね。



もちもちの弾力、食べごたえ◎

ということで今年の「おもてなしフェスタ」、楽しんでいただけましたでしょうか？我々としては去年と違って一定の手応えを感じておりますが、一方で折角ご提供いただいた品に不足や余りが生じてしまったのも事実です。来年はそのようなことがないよう、お急ぎの方のために用意した持ち帰り用お米「ふっくりんこ（※プロテック社ご提供）」の個数の最適化なども含め、もちろんさらなるチューニングを尽くしてまいります！

～ 第17回 ランナーの皆様からの評価について ～

各地のマラソン大会の参加者の反応が数値化されている著名サイトでの2017函館マラソンの評価…要するにランネットの「大会レポ」の状況をお知らせいたします。結果から申し上げますと、昨年大会の総合評価は68.4点と、下から数えた方が早い状況でしたが、今年は現時点で86.7点。実に20点近く嵩上げがなされ、関係者一同、大いなる喜びに包まれたのであります。

ただ、全国ベスト10に入るためにはあと5点は必要なのであり、そして我々が目指す「日本一」となるためには、たぶんあと10点必要です。だから現状に満足してはダメなのです。何しろこの「大会レポ」の総合得点の多寡は、とりわけランナーにとっては次回参加の指標となり、スポンサー企業にとっては協賛継続の評価軸の一つとなり、そして市民にとっては自らのマチへの誇りとなるものだと考えられるからです。

全国からより多くのランナーをお迎えし、市民のマラソンへの関心も高まり、そして多くのスポンサー企業に物心両面から支えられて…そのようなマラソンへと成長させていくうえでは、弛まぬ努力と改善を続けて行くしか途はありません。今回の結果を冷静に捉え、苦言を有難き「金言」として受け止め、さらにできるものからどんどん改善を重ねて行く。我々、勢いだけは「100点を超えるぞ！」ぐらいのイメージで取り組んでまいりますので、皆様、どうか末永いおつきあいのほどよろしく願いいたしますね。

ところで今回の「大会レポ」で驚いたのは、今年は評価方法や項目自体が変わっていたことですね。「スタート前給水」などの項目が無くなっていた一方で、「会場へ（から）のシャトルバス」や「ネットやスマホへの記録配信」などが新設されておりました。大会継続のため「得点を獲りに行く！」と宣言していた我々、昨年の評価項目には全て何らかの対策を施したのですが、調査項目自体に変更があったとはつゆ知らず…無念。

また、継続項目はほぼ対前年越えを達成した中、同レポ中の項目別★評価（満点★5）をみると、昨年は★4.0点を得ていた「記念品」は、今大会では★3.5とマイナスとなっております。これは今大会の記念品を最終的に、それも強引に決定した私の責任です（素直に反省しております。でもあの超メジャー大会のBUFFは★4.0なのに…涙目）。

何れにしても、弱みを克服し、強みをさらに強化していく取り組みについては、別途皆さんにお願いしているアンケート結果なども踏まえたうえで、後にまた連載していくであろう「2018函館マラソン準備状況」にてお知らせしてまいりますので、その節にはよろしく願います。



皆様から頂戴した「金言」は、スポンサー各社にもお届けしています

～ 第18回 市民の熱気 ～

この散文の第7回でも触れておりましたが、17大会は、約2千9百名もの皆様にスタッフとしてご参画をいただきました。その数、昨年比で4百名の増(すごいことですね)。交通、競技、医療・救護、運営など各方面に携わっていただいた皆様、本当にありがとうございました。大会終了後に事務局総出で関係皆様のもとを訪問させていただきましたが、なんと有難いことに、全ての団体から「来年もまたやりたい!」とのお話を頂戴しております(※昨年も皆さんこのような嬉しい反応でしたね)。

そこで函館マラソンを念願の「日本一のマラソン」へと押し上げるため、この嬉しい「輪」は、今後もさらに拡げてまいりたいと考えております。何しろ夏のマラソンを支えるエイドステーションの増設だけを考えても、数百人レベルのボランティアスタッフの純増が必要となりますので。

ということで我々事務局、今後もより多くの皆さんに対しお声がけ(工作)をしてまいります。ターゲットとしてロックオンされた皆さんのもとには、運営側がごく自然な感じで、いつの間にか近づいていることでしょう。その時点で既に手遅れですから諦めてくださいねふっふ。

なお、先述したランネットの「大会レポ」では、

- ・ 地元への浸透 (16大会★4.5 → 17大会★4.5)
- ・ 熱心な応援 (16大会★4.0 → 17大会★4.5)
- ・ 大会の熱気、活気 (16大会★4.5 → 17大会★4.5)

と、地域の「歓迎度」をあらゆる項目については、昨年に引き続き軒並み高いレベルとなっております。このような高評価をいただいたからには…もちろん来年は皆で全項目★5を目指したいと思っておりますので、またよろしく願いいたします!



函館市立凌雲中学校吹奏楽部



北海道大学水産学部第四十六代応援団



函館空港ビルディングエイド



”がっつ、DONAN 会エイド



函館市石崎町会



ジャックスエイド



湯の川温泉旅館協同組合



函館北ロータリークラブエイド



YOSAKOI ソーラン祭り北海道支部



市立函館高校チアリーディング局



函館市立宇賀の浦中学校吹奏楽部



みちのく銀行



梅后流かっぽれ梅房会



北ガスグループ



チーム「万代町商興会と水産高校」



大和ハウス工業エイド



函館大学バイエリア・サテライト



郷土芸能 函館巴太鼓振興会



スターバックス函館ベイサイド店



函館白百合学園中学高等学校吹奏楽団
※バス移動のうえ2か所で応援していただきました！
(だから写真も少しだけ大きく…)

函館山ロープウェイエイド



～ 第19回 最重要課題・宿泊について ～

今大会では2月14日のエントリー開始から僅か1日経過の時点で「宿問題」が発生しました。宿泊を希望される方に対し、函館マラソンのシルバースポンサー&宿泊のオフィシャルサプライヤーのJTB北海道が用意していた1千室の在庫がすぐに完売してしまったのです（※フル化初開催+北海道新幹線開業年であった昨年は、約700室を確保し、それで間に合ったにもかかわらず…です）。また、エントリーの初期段階に宿泊の需給バランスが崩れたことで宿泊単価も高騰し、結果的にエントリーの勢いが鈍化、加えてキャンセル（1週間の入金期限を経過しても未入金）も多発するなど、当マラソンへの参加を希望される方々には多大のご迷惑をおかけしたのであります。

函館マラソンの今後の開催継続とさらなる発展を展望するうえでは、この「宿問題」は、必ず解決しなければなりません。そこで、このたびの問題の発生要因と今後の対応策などについて、振り返りつつ現状考え得る対応策の方向性等をお知らせいたします。

【発生要因】当地における7月分（※大会開催時期）の宿泊供給は、ネット上での販売も含め3月半ばを過ぎた春先から充実していく中、17大会は、未だ宿泊供給が少ない2月中旬にエントリーを開始したことにより mismatch が発生、JTB北海道の予約サイトにランナーの宿泊予約が一極集中し初日のうちに完売状態となりました。

【今大会における対応】JTB北海道・実行委員会・市観光部が合同で市内および近郊の宿泊施設に対し客室の早期リリースを要請しました。結果、計1千室分の予約枠（合計2千室）が追加され、最終的には定員達成に至ったところであります。

【2018函館マラソンに向けて】先週（9/20）、JTB北海道が旗振り役となり、ホテル・旅館業の組合、旅行会社各社および市内資本の旅行会社が一堂に会し「函館マラソン宿泊問題解消策検討会議」が開催され、18大会に向けた宿泊対策にかかわる議論がスタートいたしました。なお、現段階における対応策の概要は次のとおりです。

- 1 JTB北海道が予約開始段階までにランナー向け客室を2千室規模で確保
- 2 旅行業各社が連携、客室融通と各社の強みを活かした商品を開発・販売
- 3 市内資本旅行会社とも連携、JTB未契約施設を客室確保・販売
- 4 宿泊業界団体（函館ホテル・旅館協同組合、函館湯の川温泉旅館協同組合）と連携、客室の早期リリース&値頃感のある価格設定となるよう調整を促すほか「相部屋プラン」など多様なニーズに対応できる商品開発を促進
- 5 マイカーで転戦する道内ランナー向け商品として、安価+駐車可+会場までのシャトルバス付きプランの開発促進・販売

実行委員会としても、当該会議を通じた「宿問題」解消策の構築を促進していくとともに、18大会のエントリー開始までに、地域をあげて、より参加しやすい大会づくりに努めてまいります。

～ 第20回 協賛金の動向は ～

実は今年も私、大会終了後に首都圏のプラチナ&ゴールドスポンサー社を訪問してまいりました。もちろん17大会の状況報告のためです。昨年は68.4点と低空飛行に留まった大会資料を携えビクつきながら各社のドアをノックした私でしたが、今年はランナーの皆さんから約20点の嵩増しを頂戴いたしましたので、各社に説明する口調も若干なめらか？だったと思います…皆さん本当にありがとうございました。

ただし、我が函館が輩出したプラチナスポンサー社からは、打ち合わせの冒頭の場面で「エイドステーションの手伝いであんなに水をかぶるとは思わなかった」と、強いご指摘があり冷や汗をかきましたが、続いて和やかな笑顔とともに「来年は靴とかの水対策を万全にして手伝いに行くからね！」と、嬉しいお言葉を頂戴しました。これはもう、継続を前提としたお話と勝手に承りましたからね！

また、同じく首都圏のゴールドスポンサー社には、上記の「大会レポ」を解析した資料を説明するとともに、今、ここに書いている最中の「2017函館マラソン開催状況」の下書き版をお渡しして、今大会が多くのランナーに助けられて大きく成長できたこと、また、それでも足りない部分が未だ多々あること、そして何れ「日本一」になるので、末永く面倒を見て欲しいこと…といった空手形を乱発して爆笑を誘ってきたのであります。

さて、この9月26日（火）、18大会の開催に係る協賛金の確保に向けて「函館マラソン大会協賛会」（※事務局：函館商工会議所）が開催されました。協賛会では、17大会の協賛金の集約実績について報告がなされたほか、大口スポンサー社からの来季の協賛継続の可能性などについて状況報告がなされた後、18大会の協賛金確保の見通しが決定されたのであります。

気になる「大口スポンサー社からの来季の協賛継続の可能性」ですが、「全社から前向きなご返答をいただいている」との状況報告を受けて、18大会の開催に必要な協賛金については「確保可能」との決定がなされたところであります。

ということで皆さん、来る18大会は、こと大会開催の可否を左右する協賛金については「大丈夫！」とのご裁可をいただくことができましたので、ひとまずご安心ください。あとは来週、10月2日の実行委員会で、18大会の開催フレームを決定するだけとなりました。



函館マラソン大会協賛会 開催状況
（※ちなみにダイエット必須的後ろ姿の人物が、この散文の書き手です）

～ 第21回 実行委員会開催、次回は？ ～

昨日（10月2日）午前、函館マラソン実行委員会が以下のとおり開催されました。

（報告事項）

- ・2017函館マラソン開催結果について

（議題）

- ・2018函館マラソンの開催について

実行委員会では、このたびの函館マラソンの開催結果として、ランナーの評価をはじめ交通渋滞の状況、さらには次回の協賛金確保の見通しなどを報告するとともに、来年度大会の方向性として、2018函館マラソン（フル+ハーフ）を開催することについて、拍手とともに満場一致で決定がなされました（※2018大会の概要は、10月2日付の到着情報「2018函館マラソン開催決定！」と、文中リンクの「2018大会実施概要（案）」をご覧ください）。

「2018函館マラソン」の開催日等の基本情報は、以下のとおりです。

- ・開催日 2018年7月1日（日）
- ・定員 フル+ハーフ合計で8千名
- ・申込期間 2018年2月中旬～4月中旬 ※先着順

なお大会の実施内容の詳細を示す「実施要項」については、来年1月の総会において採択される見込みとなっておりますので、それまでの間、お待ちください。



函館マラソン大会実行委員会 開催状況

…と、ここまでは昨年原稿のほぼコピーですから…少しだけ付記いたしますね。

これまでこの場で「日本一になる」を連発してまいりましたが、これは本当に、伊達や酔狂ではなく正直な気持ちなのであります。その道程は平坦ではなく、どちらかと言えばトゲトゲの茨の道であり、そしてまたかなり遠いよな…と、もちろんそのように思っております。ただ、そうした強い気持ちで各種の準備や運営に取り組んでいくことで、必ずや1歩前進が叶うものと考えております。「あれ、去年より良くなってるわ」とか、「成長してるなこの大会」といった呟きが積み重ねられていくことで、何れ必ずやその（※日本一）尻尾を掴むことができるのだと信じ、我々実行委員会一同、頑張っておりますので、皆様方におかれましては末永いご最良のほどお願いいたしますね！

～ 結びに ～

函館マラソンのフル化の草創期から紙面をフル活用して強力プッシュいただいている報知新聞さん。実は同社でも、かの有名な「青梅マラソン」を運営されておりますので、この間、その秘訣など諸々のノウハウをご教授いただきてまいりました。で、その際のひとコマ…「函館さん、随分『大会レポ』の得点を気にしているけど、そんなのは当日のお天気次第さ」、「イベントは天気が9割」、「準備を尽くしても、その他の頑張った分は残りの1割」。「だから一喜一憂しなくてもいいんだよ」と。ふむふむこれぞ開催50回を超える超メジャーマラソンのご経験を経たうえでの達観ですね。しかしながら現場を拝見させていただきましたが、その残り1割への配慮が段違いに素晴らしくて…。

さてその天候ですが、まずは昨年の寒かった大会を経て今年は初夏の函館らしからぬ蒸し暑い大会を経験したわけですから振幅が大きくて大変です。

大会当日のこと、函館マラソンの競技役員としてご来函いただいた平塚先生（※2017準備状況パート2第23～24回参照）とお話をさせていただく機会を得ましたが、5月のコース検定の際は先生曰く「夏のマラソンをみんな敬遠してさ、ほんで厳しいところで経験積まないからオリンピックとかで日本は勝てなくなったんだぜ」と力説されておりましたので、まして暑い首都圏からお越しの先生ですからこれしきの暑さは問題ないですよ…と、お尋ねしたところ…そのお返事は意外にも「暑いわぁ」と。

息子もそうです。昨年に引き続き首都圏から友達やヒゲの生えていない友達など9名編成で威勢良くスタートしたというのに…息子だけ第10エイド・緑の島の手前で暑くて見事、収容バスのお客様へと（※ヒゲの生えていない友達は第10エイドのラーメンコーナーでカミさん&娘としばらく談笑した後、フードを全て食してランもお見事）。

何れにしても、このように気まぐれな初夏の函館の天候を見据えたうえで、可能な限りの対策を展開していかなければなりませんね…エイドステーションの増設やミストシャワーの配置、飲み物の程よい保冷とかも。ということで、皆さんから「マラソン終わってヒマだろ！」と、からかわれることの多い日々ですが、実際は今大会を終えたその日の夜のミーティングの段階から、スタッフ皆で、開催まであと1年を切った18大会に向けて、さらなる改善点を語り合ったのであります。これぞ貧乏暇なし…ふふ。

（文責）

函館マラソン大会実行員会事務局課長

（函館市教育委員会生涯学習部フルマラソン担当課長）

池田敏春